平成２７年度　第３回函館市障がい者計画策定推進委員会　会議録要旨

* 日　　時　　平成２７年９月２９日（火）　午後６時３０分～午後８時
* 場　　所　　函館市役所　８階　大会議室
* 出席委員（１２名）

貝森委員，河村委員，川村委員，熊谷委員，小島委員，佐藤委員，島委員，相馬委員，谷川委員，廣畑委員，本間委員，松田委員

○　事務局職員

　　保健福祉部　障がい保健福祉課鍋島課長,天羽参事，稲村主査，福島主査，井戸主査，田辺主査，岩島主査

○　会議内容

１　開会（午後６時３０分）

２　協議事項

(1) 平成２７年度障がい児・者実態調査の結果について

　（佐藤会長）

　　　それでは，事前に送付された資料に基づいてご説明頂くので，少し時間がかかるのではないかと思う。「平成２７年度障がい児・者実態調査の結果について」として，資料がたくさんあるので，１ページから２５ページまで区切りながら，事務局から説明願いたい。

　（稲村主査）

　　　調査結果（本人用）１ページから２５ページまで説明

　（佐藤会長）

　　　では説明は途中までだが，意見や質問はないか。

　　　最後に一括してご質問でもいいが，途中で聞いておきたいなということはないか。

では最後まで説明をお願いしたい。

（稲村主査）

　　　引き続きを２６ページから５５ページまで説明

　（佐藤会長）

　　　一通りご説明頂いたが，この調査結果の数字的な説明があったので，それについて皆様からご質問，ご意見を承りたいと思う。

　（本間委員）

　　　１８歳未満の３３ページの「問３０　短期入所をしている方，していない方，今後のサービスを利用したいですか。」というところで，利用したくないという書き方があるが，ちょっと引っかかる。利用したくないという何かいやな思いとかがあったのか。必要ないなら必要ないという回答でいいが，利用したくないと本人に思わせるような何かがあったのか。

　（稲村主査）

　　　利用したいのか，自分は必要がないから等のいろいろな理由で利用したくないとかは，それぞれの考えがあるかと思うが，この調査では，設問に対して，こちらが提示した「利用したい」「利用したくない」「利用する必要がない」といった回答例の選択肢の中から選んでご回答しているため，このような回答数になったものと考えている。

　（本間委員）

　　　ちょっとトゲが刺さったような気がすると思った。

　（佐藤会長）

　　　おそらく見方などは職業的な視点からもあるだろうとは思う。この設問の回答などは，よくわからないから「利用したくない」とか，いやな思いをしたから「利用したくない」とか色々なことがあるだろうと思う。ただ１８歳未満の回答なので，なかなかそれは分からないと思うし，親元から離れたくないから「利用したくない」と回答することなどもあるかと思う。

　　　これに限らず，ほとんどの設問で「利用したい」か「利用したくない」などと選択するものが多く，委員のご意見も分かるが，おそらく色々な理由があるとことについては，この調査ではそこまでは分析しきれないところがあると思う。

　（本間委員）

　　　１８歳以上の１１ページの外出について，通院・通所・通勤や通学以外の外出の頻度についての回答が，すごく外出頻度が少ないと思うが，これは，ほとんど自宅にいるのか，施設等に入所している人が多いと言うことなのか。

　（稲村主査）

　　　この設問は，通院・通所・通勤や通学以外の外出についてなので，買い物へ行くとか，遊びにいくとか，散歩をするなど色々な外出が少ないということが現れた結果であると認識している。

　（本間委員）

　　　もう少し幅広く考えての支援があった方がいいのかなと思うが，どうか。

　（佐藤会長）

外出の支援などについては，次の１２ページなどに載っているが，個人的には外出支援の体制作りというのがもっとあれば，出かけようとする方が多くなっていくような気がする。

　　　ただ毎日，仕事であるとか障がい者施設とかへ出かけていて，めったに個人的な外出はないということが，ここの数字に表れているような気もする。

　　　支援する人や，そのほか色々な外出しやすい環境があれば，もっと出かける人が多くなるとは思う。

　（本間委員）

　　　ちょっと外に出るだけで気分が変わると思う。自宅や施設にとどまるのではなく，外出するチャンスを得られることが必要なのかなと思う。

　　　あと１９ページの利用したことがないのは，どのような理由からですかという設問の中で問１５の補問２で，利用したことがないのはどのような理由からですかとの質問に「専門性に欠けるから」や「探したが見つからなかった」というのは，なんといったらいいのか難しいのか。

（佐藤会長）

　　　ボランティアグループというのは，多種多様あるが，いざ利用しようと思うと，ぴったりと合うかというのはなかなか難しい所もある。

　　　さっきの外出支援についても，法的なものもあるが，ボランティアにお願いするにも，そのような活動をしている団体があるのかどうか。たとえば，脳性麻痺の人達の外出支援について，ボランティアでどこまで支援できるのかといったこういうことが切実な問題としてあるんだと思う。

（本間委員）

　　　この回答をされている方達は，大変なので，きっとなにかしらの不満を持っているのかなと思ったので質問した。

（佐藤会長）

　　　専門性を持っているボランティア団体はなかなかいない。特に医療に関して専門性を持つ団体は皆無に近いと思う。

　　　最近，看護師さん達がボランティアグループを作ったが，何か医療的な対応する際は有償となるが，全国的な規模で立ち上がっている。先日函館でも同様のグループが立ち上がったが，たとえば，人工呼吸器が必要な方の外出支援をボランティアさんが対応できるのかということについてはなかなか難しいと思う。

　　　「探したが見つからない」「専門性に欠けるから」といったことは，実際の問題としてあり，こうしたことをボランティアの人達などが気づき，専門性のある人や機関を招いたり，協力を仰いだりなどそういったことをできればいいが，厳しいところはある。

　　　でも，この設問に対する回答は，そういった要望があるととらえていいと思う。

（本間委員）

　　　あと，４８ページの問４３の成年後見制度について，知っていますかという設問で「知らない」と回答が多く，気になる。もう少し広報を工夫できないか。次のページの問４７の災害の避難に対する答えでも，「あまり考えていない」と回答している人が多いように感じるが，この点も，もう少し広報等が必要なのかなと思う。

（稲村主査）

　　　委員のおっしゃるとおり，周知は大切だと思っている。

　　　先ほどのボランティアの設問の回答例については，お示しした資料の枠が狭かったため，表記を省略していたため，「専門性が欠けている」と表記しており，若干誤解を与えるような表現だったかと思うが，アンケートでは「専門性に欠けていると思うから」としており，回答された方はおそらく専門性が欠けていると思うからちょっと二の足を踏んでいるということでご回答頂いていることが多いのかなと思う。誤解を与える表記になり申し訳ない。

（本間委員）

設問で「専門性に欠けるから」というのは，プロの方々である市役所の方が，相談なり，ボランティアの育成をしているのに，そのボランティアが信頼を受けられていないように感じる。本当は一生懸命勉強されていたりされているわけで，そんな中でこの設問はボランティアの方を傷つけないでほしい。

（佐藤会長）

ボランティアについては，来週渡島管内のボランティア団体を集めて研究会を行う予定になっている。定員は２００名ほどだが，その中で私が事例発表を行うことになっているので，この件については意見として出そうかなと思う。

ボランティアをやっている人たちが，単に自分の趣味的なことを行うだけでなく，もっと真剣にニーズをとらえて，こういうことをしてみようなどと進めていくことが私は大事になってくると思う。

2000年から介護保険が始まり，色々なサービスがあり，十分な対応ができていると面もあり，専門性を持ったボランティアは影を潜めると言うか，やらなくなってきている傾向にある。

この辺あたりのことは，市役所の皆さんがボランティアを養成する立場にあるわけではありませんのでなかなかつらいところはあるかと思う。

では，ほかに質問はないか？

（熊谷委員）

この実態調査の回答率をみると，全体で対象が４，１３０人のうち１，５６３人が回答しており，回答率が３７．８％となっているが，この回答率はどのように捉えているのか。前回の１０年前は，何％だったのかを含めて，前回の調査と比較してどう理解しているのかを教えてほしい。

（稲村主査）

　　　前回の１０年前の調査の回答率は身体の児・者合わせて，６１％，知的の児・者合わせて６１％，精神の児・者合わせて１００％となっている。なお，精神障がいの方については，このような調査を行うことに慣れていないことも考慮して，全て対面調査を実施したため，回答率が１００％となった。

　　　今回の調査の回答率については，思ったよりも低いと認識している。

　　　今回の調査では委員会でのご意見を踏まえて，若い方に多く回答して頂きたいという方向性で調査を実施した結果，高齢の方の回答率は高いのですが，若い方は，やはりお仕事などで忙しいこともあり，また調査項目も大変ボリュームのあるものだったので，調査にご協力頂けなかったこともあったかと考えている。

もっとあっさりとした数ページの調査票であれば，回答率は高かった可能性はあったかと思う。

（熊谷委員）

　　　今回の調査の回答率は低かったと感じてるのが実態ということだが，この委員会でもこの調査についての提言があったかと思うが，確実に実行できたかという意味ではできなかったと言うことなのだろうと思う。

　　　提言の中では，施設入所者であれば施設の介護者が回答を代行してくれるのではないかというのもあったかと思う。

　　　今回の調査では，この方法がとられていたのか，あるいはやっていたとしてもこの回答率だったのなら致し方ないのかなと思う。また１０年後になるが，こういった調査があるかと思うが，回答率を上げていけるような調査方法を探して頂ければいいと思う。

（稲村主査）

　　　この調査を行う際に，委員会でも色々なご意見があったこともあり，各種障がい者団体への協力依頼と周知を行った。

　　　施設長等からの文書を出してはどうかという意見もあったが，４，０００人超える対象者がいるため，どの人がどんなサービスを受けているのか調べるのは実務上難しいことや無作為抽出で，無記名回答の性質上，施設の方にはどの入所者が対象になっているのかはお伝えできなかった。

　　　ただ，各施設に対しては，こういう調査を実施する事について調査票を添えて調査協力のお願いを文書にて依頼し，その後多くの施設からお電話にてお問い合わせ頂いた。

その際も調査回答のご協力も依頼しておりましたが，このような回答率になってしまったということ。

（佐藤会長）

　　　１，５３６人という回答数は，調査のサンプル数としては，どうなのか。

（稲村主査）

　　　本来は，対象者については，３７８人回答があれば，サンプル数としては十分であるが，障がい別にもぜひ拾っていきたいということで，多くの対象者に送付している。

（川村委員）

アンケートを送付され，量の多さにびっくりしたという会員の意見だった。精神の場合，息子さんや娘さんが自分で記入することが多いのだが，あまりの多さに途中でやめてしまったという方もけっこういる。もう少しすっきり短くできなかったのかという意見が家族会から多かった。

また，全体にサービスについて見ていたのだが，どういうサービスを自分は受けられるのかを知らない方が非常に多いというのが，パーセントを見るとでている。精神にしろ知的にしろ，サービスについて周知をしていただくことが大切と強く感じた。何かそのような方法はないものか。

（稲村主査）

　　　昔に比べると相談窓口の体制も整っており，市内に相談支援事業所も何か所かできており，障がい者自立支援法が施行され，総合支援法になり，相談の掘り起こしもできている。また，サービスの利用は，全体的には年々増えているが，やはり広く市民の皆さんに調査をすると，まだ周知が足りない状況であり，今後の課題として対応を考えなければならないと思う。

（川村委員）

　　　家族会でよく，そういうサービスが受けられるのは知らなかった。もっと早く知っていれば，なにか良い方法がとれたのにという話が多い。自立支援で来所したときに何か印刷したものでももらえればと思う。

（佐藤会長）

　　話はつきないと思うが，まだ，説明が必要なものがあるので，進めたい。家族・介護人と調査について説明してほしい。

（稲村主査）

委員のみなさんから，障がい当事者は，家族等に調査票を書いてもらったりしているが，本人の考えと家族の考えは違う場合があるのではないかという意見があったことから，家族・介護人の調査をした。

家族・介護人の調査結果を説明。

　（佐藤会長）

　　　介護している方の状況が垣間見えたと思うが，何か意見はないか。

　　　ないようであれば，自由記載について説明願いたい。

　（稲村主査）

　　　主な自由記載について説明

　（佐藤会長）

　　　読み切るというのは，大変だと思う。一字一句載せたということだが，知的障がいのある方の４ページの福祉全般のところの③に，ほとんどひらがなになっているのがあり，これを読むと，「いじめられないでいたい」ということが２回出てくる。障がいのある人たちの現状がでてきたのかと思う。理解してほしいというのが切々と訴えられたのではないか感じる。いろいろな要望がたくさんあるので，じっくり読んでみたいと思う。

　（本間委員）

　　　相談関係のところに市役所の職員がすぐに変わるとあるが，異動は何年くらいで変わるのか。

（鍋嶋課長）

平均では４年間くらい。

　（本間委員）

専門の人は残っているのか。同じ人だと安心すると思う。

　（鍋嶋課長）

全員が異動になるのではない。

　（松田委員）

　　　精神障がいのある方の各種福祉サービスの家族等介護者のところで①，以前は，障がい者の家庭を定期的に保健師が訪問していたが，今後もそのような制度があればよい。とあるが，今はその支援制度はなくなったのか？

　（天羽参事）

　　　全家庭を訪問できたということは今までもないが，今も支援が必要な障がい者の家庭を訪問している。全員のところで行ける状況ではないので，もしかしたら，その方の状況が変化していろいろなサービスを利用していて，保健師の訪問が必要な状況ではなくなったのかもしれない。家庭訪問の支援制度がなくなったということではない。

　（佐藤会長）

　　　よろしいか。

　（松田委員）

　　　はい。

　（佐藤会長）

　　　基本的に，必要な方には訪問しているというとらえ方でよいのか。

　（天羽参事）

　　　障がいのある方が満足できる回数行けるということは難しいけれど，必要な方のところには訪問している。

（佐藤会長）

難病対策のところで，保健師が少なくなったのではないかと，何年か前に質問したことがあったが，そういうことではないのか。

　（天羽参事）

市の職員は減少してきているが，様々なサービスが増えてきており，精神の方の場合は，医療機関からの訪問看護も増えてきており，その方の状況に応じて，医療機関やサービス事業者など様々な機関と連携をしながら支援しており，保健師でなければならないということではなく対応している。

　　（川村委員）

精神の場合は，けっこう自立している方が多い。私たちは，親亡き後のことを考え，一人で生活できるようにと，割と若い時から自立するようにという方向性で接している。しかし，自立しているとはいえ，親がある程度手をかけないと生活できない状況。たとえば，朝起きられなくて，ゴミを出せないから何日もためているので，親が行って捨てなければならない。どうしても一人で生活できないとか，こういう面を助けてほしいとかの場合は，市の方が来て，何か必要なものはあるかと聞いてほしい。天羽参事が話したように，相談支援センターの方に行って，日常生活の支援を受けているようなので，時々，サービスなどが使えるように時々声をかけてほしい。

　（松田委員）

　　　自由記載で，全体を見ると市営住宅に関することが多い。皆さん公営住宅に入りたいと思っているのに入れないとの事だが，どこに聞けばいいのか。永遠のテーマだが，なんとかしなければならないと思う。

　（稲村主査）

公営住宅はあまり増えていないし，新たな建設が難しいと聞いている。障がい者だけでなく高齢者の方も住宅に関しては困っていると聞く。障がいや高齢の要件で，抽選の条件が良くなるなどの工夫はしているとのことである。しかし，住宅自体が増えていないので，永遠の課題だと思う。

　（佐藤会長）

　　　その他で，全体とおして何かあるか。

　（廣畑委員）

前回の障がい者基本計画の策定にあたって，前回の実態調査はどのように計画に反映させて策定したのか。また，今回の基本計画に実態調査の結果をどのように生かしていくのか。生かす部分をこの委員会で議論するのか。もしくは，市の方で案があって提示するのか。

　（稲村主査）

前回のことは確認していないので調べてみる。今回については，実態調査はとても幅広く，みなさんのご意見をすべて施策に反映できるかというと，現実的には難しいと思う。しかし，この調査をもとに障がいのある方の求めていることをしっかり把握したうえで，第１回目の委員会で示した施策の体系の案の中に取り入れていくことができないかと検討するという作業になり，様々な部局の施策に生かしていきたい。次回には，施策の柱になるものを示して，その後肉付けして，委員会に提案していきたいと考えている。

　（河村委員）

　　　この調査を読み込みたいと思うが，これからどのようなものが見えてくるのか。全体像として，このような調査結果の裏にこのようなことがあるのではないかという，市が実態調査の結果をまとめたものを示してほしいが，それがあると，我々もより検討しやすいと思うが可能か。

　（稲村主査）

　　　この調査の結果を受けてまとめなければならないが，先に調査結果をしっかりとまとめ，分析し，委員会に提示して計画を策定するべきだが，１年間で調査と計画の策定を同時進行で行わなければならないので，順序として，結果を先にまとめて示すというのは難しいかもしれないが，まとめて提示していかなければならないと思っている。

　（佐藤会長）

　　　読み込んでいくと，いろいろと答えてくれた人たちがどういう状況なのか読み切れるようになると思う。また，障がいのある人たちは，地域で頑張って生きているんだという印象を持った。その中でいろいろな要望を出してくる。特に，障がいのことを理解してほしいと思っている人たちが多いと感じた。サービスに対する不満についても，より良い生活を求めるということもあるが，ひとつの要望としてサービスをどのように展開していくのか，サービス事業所も含めて考えていかなければならないと思う。大雑把でもいいので，こんなことが見えてきたというのを後でまとめてほしい。

　　市役所においても，ひとつひとつの意見を聞くなかで，確認しながら仕事を進める必要があると思う。

　　　今後の日程について後で説明があると思うが，あまり時間をかけていけないという状況もある。具体的にはあと２回くらいの委員会で，長期的な計画を検討し，来年にはパブリックコメントも実施し，議会の委員会にも報告しなければならないということもあるので，日程的にもつまっているので配慮して進めてほしい。

　　　事務局からないか。

　（福島委員）

　　　前回の委員会で，視覚障がい者用付加装置設置信号機および高齢者用等信号機の設置数に間違いがあったので，これら，設置場所で集約すると１７８か所ということで確認したので訂正したい。

　（佐藤会長）

　　　島委員よろしいか。

　（島委員）

　　　その信号機がきちんと動いているのかという問題があるが，次の段階で，相談し，望んでいきたい。